

名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	解剖生理学 (Anatomical Physiology II)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	小泉 直子
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間	30	開講区分	前期
コース	昼間 I 部			(単位)	1	曜日・時限	木曜日・3限

【授業の学習内容】

基礎医学から臨床医学を考えることにより、暗記で症状を覚えるなどを避け、疾患や症状の理解をすることが、鍼灸師として携われるかどうかを判断するに必要な知識となります。状況によっては速やかに医療機関へ送るなどの処置ができるようにしていきます。

※鍼灸按摩マッサージ教員免許

【到達目標】

臨床では様々な疾患を持つ患者が来院する事が多い。このような患者に対して、習得した知識を元に、患者と接した際に必要な対応ができるようにする。
[具体的な到達目標]

目標①それぞれの疾患に対して説明ができるようにする。

目標②それぞれの疾患を持つ患者に対して、より愛護的に接することができるようにする。

目標③必要があれば、速やかに医療機関に送る判断ができるようにする。

授業計画・内容

1回目	組織とは何かを説明できる
2回目	結合組織について説明できる
3回目	骨組織・関節の仕組みについて説明できる
4回目	肩関節の構造と機能について説明できる
5回目	股関節の構造と機能について説明できる
6回目	膝関節、下腿の構造と機能について説明できる
7回目	肘関節、前腕、手指関節の構造と機能について説明できる
8回目	筋の構造と機能について説明できる
9回目	腱と腱鞘の構造と機能について説明できる
10回目	ニューロンと細胞体の部位、グリアについて説明できる
11回目	神経の変性と再生、興奮伝導、静止電位と活動電位、興奮伝導について説明できる
12回目	シナプス伝達と上位・下位運動ニューロンについて説明できる
13回目	神経筋接合部の構造と機能について説明できる
14回目	大脳皮質と大脳基底核について説明できる
15回目	脊髄について説明できる
16回目	試験解説

準備学習
時間外学習

この授業を受けるには、解剖学、生理学、病理学などの基礎医学の理解が必要です。これらの予習を行い授業に臨むようにして下さい。また、理解を深めるために、復習を欠かさないで下さい。

評価 方法	1. 定期試験 2. 小テスト 3. レポート 4. 課題成果 5. 実地試験	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	定期試験100%
----------	---	---	----------

受講生への
メッセージ

鍼灸師が接する患者さんの中には、内蔵疾患や重度の神経疾患等の病気を持っている方もいらっしゃいます。このような方々は自分の病気に詳しいことも多いですが、さらに様々な質問もしてきます。病気を知ることによって、どこまで鍼灸師として関わられるかを見極める能力を養って下さい。

【使用教科書・教材・参考書】

臨床医学各論教科書、臨床医学各論追加資料、解剖学教科書、生理学教科書、入門解剖人体解剖学、配布プリント

名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	臨床医学各論Ⅱ (Clinical Medicine Itemized Discussion Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	小泉 直子
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間	30	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	1	曜日・時限	水曜日・2限

【授業の学習内容】

基礎医学から臨床医学を考えることにより、暗記で症状を覚えるなどを避け、疾患や症状の理解をすることが、鍼灸師として携われるかどうかを判断するに必要な知識となります。状況によっては速やかに医療機関へ送るなどの処置ができるようにしていきます。

※鍼灸按摩マッサージ教員免許

【到達目標】

臨床では様々な疾患を持つ患者が来院する事が多い。このような患者に対して、習得した知識を元に、患者と接した際に必要な対応ができるようにする。
[具体的な到達目標]

目標①それぞれの疾患に対して説明ができるようにする。

目標②それぞれの疾患を持つ患者に対して、より愛護的に接することができるようにする。

目標③必要があれば、速やかに医療機関に送る判断ができるようにする。

授業計画・内容

1回目	総論(保存的療法と観血的治療、画像診断)、関節炎、関節可動域の異常について説明できる
2回目	五十肩、腱板損傷について説明できる
3回目	変形性関節症、変形性股関節症について説明できる
4回目	ペルテス病、大腿骨頭壊死症、発育性股関節形成不全について説明できる
5回目	先天性股関節脱臼、トレンデレンブルグ徴候、斜頸について説明できる
6回目	変形性膝関節症、変形性足関節症について説明できる
7回目	変形性肘関節症、手指の変形性関節症、関節リウマチについて説明できる
8回目	痛風、偽痛風について説明できる
9回目	骨粗鬆症、くる病・骨軟化症について説明できる
10回目	腫瘍とは何か、骨腫瘍について説明できる
11回目	転移性骨腫瘍、骨肉腫、骨軟骨腫について説明できる
12回目	筋肉炎・筋膜炎、炎症の4大・5大徴候、多発性筋炎、化膿性腸腰筋炎について説明できる
13回目	骨化性筋炎、悪性高熱、足底腱膜炎について説明できる
14回目	腱鞘炎、ばね指、ドケルバン病、フィンケルシュタインテストについて説明できる
15回目	重症筋無力症について説明できる
16回目	試験解説

準備学習
時間外学習

この授業を受けるには、解剖学、生理学、病理学などの基礎医学の理解が必要です。これらの予習を行い授業に臨むようにして下さい。また、理解を深めるために、復習を欠かさないで下さい。

評価 方法	1. 定期試験 2. 小テスト 3. レポート 4. 課題成果 5. 実地試験	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	定期試験100%
----------	---	--	----------

受講生への
メッセージ

鍼灸師が接する患者さんの中には、内蔵疾患や重度の神経疾患等の病気を持っている方もいらっしゃいます。このような方々は自分の病気に詳しいことも多いですが、さらに様々な質問もしてきます。病気を知ることによって、どこまで鍼灸師として関わられるかを見極める能力を養って下さい。

【使用教科書・教材・参考書】

臨床医学各論教科書、臨床医学各論追加資料、解剖学教科書、生理学教科書、入門解剖人体解剖学、配布プリント

名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	リハビリテーション医学 (Rehabilitation Medicine)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	早野 徳俊
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間	60	開講区分	前期・後期
コース	昼間 I 部			(単位)	2	曜日・時限	木曜日・2限

【授業の学習内容】

リハビリテーション医療は多職種に支えられ、様々な専門領域にリハビリテーション医学が活用されている。患者の運動機能や日常生活活動の能力の障害を回復に導き、社会・環境への適応を促進するには本人・家族を含めた多くの人々の知恵と努力が必要となる。これらを知ることで、鍼灸臨床の幅を広げることができる。またリハビリテーションの理念と知識・技術を学ぶことで障害者の社会参加を援助し、豊かな社会づくりに役立つ体系を学び、社会に貢献することができる。

※実務経験:教員養成課程修了。

2003年から臨床に携わり東洋医学療法の一つ「経絡治療」で運動器疾患をはじめ、内科・婦人科疾患も扱う。

【到達目標】

リハビリテーションの概念を理解し、リハビリテーションとは何か、手段、実施時期、各評価について理解できる。また、各疾患に対して、疾患把握、評価、リハビリテーション手段などが習得する。

正常運動構造・機能を学ぶことで、疾患における変化をキャッチできる手段を習得する。

授業計画・内容

1回目	リハビリテーション総説が理解できる。	16回目	小児のリハビリテーションが理解できる。
2回目	リハビリテーションと障害が理解できる。	17回目	骨関節疾患のリハビリテーションが理解できる。
3回目	リハビリテーション医学と医療が理解できる。	18回目	関節リウマチのリハビリテーションが理解できる。
4回目	リハビリテーション医学とチームアプローチが理解できる。	19回目	末梢神経障害のリハビリテーションが理解できる。
5回目	地域ケアと地域リハビリテーションが理解できる。	20回目	パーキンソン病のリハビリテーションが理解できる。
6回目	心身機能・身体構造の評価ができる。	21回目	呼吸器疾患のリハビリテーションが理解できる。
7回目	活動の評価ができる。	22回目	心疾患のリハビリテーションが理解できる。
8回目	参加の評価ができる。	23回目	運動学の基礎が理解できる。
9回目	合併症、運動麻痺の評価ができる。	24回目	脊柱・体幹の機能、肩甲帯・肩の機能が理解できる。
10回目	運動年齢テスト、高次脳機能評価ができる。	25回目	肘と前腕の機能、手と手指の機能が理解できる。
11回目	医学的リハビリテーションが理解できる。	26回目	骨盤と股関節の機能が理解できる。
12回目	脳卒中のリハビリテーションが理解できる。	27回目	膝関節の機能が理解できる。
13回目	脊髄損傷のリハビリテーションが理解できる。	28回目	足の機能が理解できる。
14回目	切断のリハビリテーションが理解できる。	29回目	正常歩行と異常歩行が理解できる。
15回目	総復習	30回目	総復習
16回目	試験解説	31回目	試験解説

準備学習
時間外学習

リハビリテーションの概念と役割を学びます。リハビリテーションの要点を理解するには、人体への影響を考え、解剖学、生理学、臨床医学各論・総論との関わりが必要となります。よって、それらの科目の予習及び復習を必要とします。

評価 方法	1. 定期試験 2. 小テスト 3. レポート 4. 課題成果 5. 実地試験	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	定期試験100%
----------	---	---	----------

受講生への
メッセージ

リハビリテーション医学は様々な専門領域に活用されている。我々鍼灸師も理念と知識と技術を学ぶことで患者状態の把握につながり、また回復状況を周知することができる。物理学知識も必要な面があり、難しい部分もあるが、鍼灸臨床応用内でも利用できることは多々ある。患者状態把握に結び付けよりよい鍼灸治療に役立てられるよう頑張ってください。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:土井信之他著:リハビリテーション医学第4版. 医歯薬出版

参考書:落合慈之監修:リハビリテーションビジュアルブック第2版. 学研メディカル秀潤社

名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	関係法規 (Regulations)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	遠藤 久子
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間	30	開講区分	前期
コース	昼間 I 部			(単位)	1	曜日・時限	月曜日・3限

【授業の学習内容】

「按摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律」(あはき法)を主軸に、医療従事者として必要な衛生関係法規、医療法、医薬品医療機器等法、各種医療従事者資格法、社会福祉関係法規、社会保険関係法規を学び理解する。

※鍼灸按摩マッサージ教員免許

【到達目標】

はり師、きゆう師を業とするにあたり、免許に必要な要件や手続きを理解し適切に行うことができる。法令違反となることなく、はり師、きゆう師として活動することができる。医療人として他の医療系職種との資格範囲、業務内容を理解することでチーム医療の場で円滑にコミュニケーションや協業ができるようになる。

授業計画・内容

1回目	法の体系について理解できる。医療過誤とリスクマネジメント、インフォームドコンセントを理解し説明できる。
2回目	あはき法律制定の目的と免許に関することについて説明ができる。
3回目	業務の独占と業務の範囲、施術に関する注意について理解し実践できる。
4回目	施術所などに関する規則について説明できる。
5回目	施術所の名称制限と広告制限について理解し、何故制限があるのかを説明し、例を挙げることができる。
6回目	業務の停止処分に関する事項を説明することができる。
7回目	無免許営業の取り締まりについて、歴史的な背景を含め理解し処罰の対象となる行為について説明できる。
8回目	学校、養成施設の概要、指定試験(登録機関)の業務と責任について説明できる。
9回目	罰則規定について理解し、内容について説明できる。
10回目	医事法規と医療制度、医療法の概要について説明できる。
11回目	資格法について学び、医療従事者の資格、業務範囲、内容、罰則について説明できる。
12回目	薬事法規、衛生関係法規について説明できる。
13回目	社会福祉関係法規について、法令の種類と概要について説明できる。
14回目	社会保険関係法規について、法令の種類と概要について説明できる。
15回目	復習
16回目	試験解説

準備学習
時間外学習

この授業を受け、理解を深めるには授業前までに授業範囲を予習し、読めない字は事前に調べておくこと。予習で分からない所を明確にしておく事が重要です。授業後はノートをまとめて知識を整理することが必要です。

評価 方法	1.出席 2.小テスト 3.課題提出 4.授業態度	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	定期試験100%
----------	------------------------------------	--	----------

受講生への
メッセージ

将来、業務を開始するにあたり、法規は必ず理解し遵守しなければならないものである。本授業を通してこれを学んでもらいたい。また、法は禁止・罰則のためだけのものではなく、社会における人の権利、人権を守ることが目的である。あはき法についてもはり師、きゆう師の業が国家資格を必要とするのは疾病を有するもの等に関し、一定水準の知識及び技能を有するものが行わなければならない、人体に危害を及ぼすおそれがあり、わが国の衛生水準の低下を招くこととなる行為が含まれているためであるということを理解し日々の学習にはげんでもらいたい。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:関係法規 第7版 医歯薬出版株式会社

名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	東洋医学概論Ⅲ (Oriental Medicine IntroductionⅢ)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	早野 徳俊
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間	30	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	1	曜日・時限	木曜日・1限

【授業の学習内容】

東洋医学概論の基礎知識を復習し、臨床応用ならびに平易な言葉で説明をすることができるようになる。
 ※実務経験: 教員養成課程修了。
 2003年から臨床に携わり東洋医学療法の一つ「経絡治療」で運動器疾患をはじめ、内科・婦人科疾患も扱う。

【到達目標】

東洋医学の基礎を理解し、適切な病態把握ができ、それに基づいて治療法も組み立てができるようになる。また、東洋医学的に説明することができるようになる。

授業計画・内容

1回目	陰陽学説、五行学説について理解できる。	
2回目	生体物質について理解できる。	
3回目	肝・胆の生理機能について理解できる。	
4回目	心・小腸の生理機能について理解できる。	
5回目	脾・胃の生理機能について理解できる。	
6回目	肺・大腸の生理機能について理解できる。	
7回目	腎・膀胱の生理機能について理解できる。	
8回目	病因病機について理解できる。	
9回目	四診について理解できる。(1)	
10回目	四診について理解できる。(2)	
11回目	弁証論治について理解できる。	
12回目	八綱・気血津液弁証について理解できる。	
13回目	臓腑・経絡弁証について理解できる。	
14回目	治法について理解できる。	
15回目	総復習	
16回目	試験解説	
準備学習 時間外学習	1、2年の内容(東洋医学の専門用語)を日常使いしていきましょう。	
評価 方法	1. 定期試験(90%) 2. 小テスト(10%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格
受講生への メッセージ	臨床実習など臨床にてスムーズに東洋医学的な病態把握、治療方針ができるようになりましょう。	
【使用教科書・教材・参考書】		
教科書:、東洋医学概論、ずっと使える! 鍼灸臨床BOOK (株)滋慶出版参考資料: 配布プリント・練習問題等		

名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	経絡経穴概論II (Outline of the Meridians Acupuncture PointsII)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	高橋 菜摘
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間	30	開講区分	後期
コース	昼間			(単位)	1	曜日・時限	水曜日・3限

【授業の学習内容】

1、2年次で学んだ内容の予習。
国家試験の出題から経絡経穴を強化する。

実務者経験:教員養成科を修了。

【到達目標】

経絡の流れる部位、経穴の位置を正確に説明できるようになる。臨床にて、正確に取穴ができるようになる。

授業計画・内容

1回目	督脈、任脈を深く理解できる。
2回目	手の太陰肺経を深く理解できる。
3回目	手の陽明大腸経を深く理解できる。
4回目	足の陽明胃経を深く理解できる。
5回目	足の太陰脾経を深く理解できる。
6回目	手の少陰心経を深く理解できる。
7回目	手の太陽小腸経を深く理解できる。
8回目	足の太陽膀胱経を深く理解できる。
9回目	足の少陰腎経を深く理解できる。
10回目	手の厥陰心包経を深く理解できる。
11回目	手の少陽三焦経を深く理解できる。
12回目	足の少陽胆経を深く理解できる。
13回目	足の厥陰肝経を深く理解できる。
14回目	奇経を深く理解できる。
15回目	奇穴を深く理解できる。

1、2年生の復習を行う。要穴表などの復習を行う。

準備学習
時間外学習

評価 方法	<ul style="list-style-type: none"> ・期末試験(70%) ・小テスト(20%) ・提出物(10%) 	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	毎回の授業で小テストを実施する。 期末試験は100点満点で70%の評価とする。 加えて毎回の小テスト20%、提出物10%で成績評価とする。
----------	---	--	---

受講生への
メッセージ
経絡経穴の名称や場所の知識は得てきたと思います。
経絡経穴と筋肉、神経、血管などの構造体の把握をさらに深く認知することで、臨床において理屈をもって患者さんの施術にあたることができます。楽しんで強化していきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】教科書:経絡経穴概論

参考資料:プリント等

名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	臨床経穴学Ⅱ (Clinical Acupuncture PointsⅡ)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	伊藤 昌幸
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間	30	開講区分	前期
コース	I部			(単位)	1	曜日・時限	水曜日・3限

【授業の学習内容】

国家試験に向けて、経脈、経穴をしっかり理解する。
実務者経験:教員養成科修了。個人宅、介護施設などへの往診治療中心の治療院いせやを開業し臨床に携わる。

【到達目標】

- ①十二経脈の分布・接続・分布概要・走行方向・流注の概要が理解できる。
- ②絡脈・経筋・皮部の概要が理解できる。
- ③十二経脈・奇経八脈に所属する各経穴の取穴部位・解剖学的知識(筋・神経)を理解する。
- ④各要穴(五俞穴・原穴・郄穴・絡穴・俞穴・募穴・四総穴・八脈交会穴・下合穴)を理解する。

授業計画・内容

1回目	督脈、任脈が理解できる	
2回目	手太陰肺経が理解できる	
3回目	手陽明大腸経が理解できる	
4回目	足陽明胃経が理解できる	
5回目	足太陰脾経が理解できる	
6回目	手少陰心経が理解できる	
7回目	手太陽小腸経が理解できる	
8回目	足太陽膀胱経が理解できる	
9回目	足少陰腎経が理解できる	
10回目	手厥陰心包経が理解できる	
11回目	手少陽三焦経が理解できる	
12回目	足少陽胆経が理解できる	
13回目	足厥陰肝経が理解できる	
14回目	奇穴が理解できる	
15回目	復習	
準備学習 時間外学習	解剖学的知識が大事になってきます。復習をお願いします。	
評価 方法	・平常点(20%) ・期末試験(筆記)(80%) 評価方法はGPA制度となります 100~90点 S 89~80点 A 79~70点 B 69~60点 C 59点以下 F不合格	①平常点は欠席・遅刻・早退・忘れ物・提出物の期限・授業態度を減点方式で計算していく。ただし、減点は20%を越える場合は、さらに減点していく。 ②期末試験は筆記試験を行う。 ③成績は①+②の合計とする。
受講生への メッセージ	経穴の名前だけでなく、解剖学的知識も必要になってきます。国家試験に向けて頑張りましょう。	
【使用教科書・教材・参考書】教科書:経絡経穴概論 参考資料:プリント等		

名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	鍼灸診断学Ⅱ (Acupuncture and Moxibustion Pathognomy Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	池田 晋太郎
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間	90	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	3	曜日・時限	火曜日・1～3限

【授業の学習内容】

鍼灸治療では患者に問診を行い、身体診察を行い、証を立て治療を行う。
 3年次に実施される臨床実習においても、先ず一般診療が基本であり、一般診療に関する基本的能力を備えることが求められる。
 鍼灸治療に必要な西洋医学的診察法・東洋医学的診察法を学び、適切な施術を行うための判断力を診察法・施術・効果判定と一連の流れを通して実践的に学んでいく。
 ※実務経験：鍼灸教員課程修了
 鍼灸整骨院にて鍼灸治療に従事し、また登録販売者として医薬品の提案・販売業務にも携わる。

【到達目標】

鍼灸臨床の流れを理解し、四診・各種検査、弁証論治、施術、予後の予測や効果判定などを自分なりに考えを持ち、行えるようにする。
 (具体的な目標)

- ①患者の状態を正確に把握することができる。
- ②患者の持つ愁訴が鍼灸適応症例なのか病態鑑別を適切に鑑別できるようにする。
- ③鍼灸適応症であると判断された場合の弁証論治、施術、予後の予測や効果判定が適切できるようにする。

授業計画・内容

1回目	鍼灸施術の流れを理解することができる。	16回目	切診(経穴反応)について理解・実践できる。
2回目	鍼灸臨床に則した医療面接法を理解・実践できる①	17回目	切診(腹診)について理解・実践できる。
3回目	鍼灸臨床に則した医療面接法を理解・実践できる②	18回目	切診(背候診)について理解・実践できる。
4回目	痛みの評価法について理解・実践できる。	19回目	切診(脈診)について理解・実践できる。
5回目	QOLの評価法について理解・実践できる。	20回目	弁証と治療の組み立てについて理解・実践できる①
6回目	整形外科領域における検査法・評価法を理解・実践できる①	21回目	弁証と治療の組み立てについて理解・実践できる②
7回目	整形外科領域における検査法・評価法を理解・実践できる②	22回目	治則・治法について理解・実践できる。
8回目	整形外科領域における検査法・評価法を理解・実践できる③	23回目	配穴法について理解・実践できる。
9回目	整形外科領域における検査法・評価法を理解・実践できる④		
10回目	消化器領域における検査法・評価法を理解・実践できる。		
11回目	産婦人科領域における検査法・評価法を理解・実践できる。		
12回目	精神神経科領域における検査法・評価法を理解・実践できる。		
13回目	高齢者における検査法・評価法を理解・実践できる。		
14回目	望診(色・形態)について理解・実践できる。		
15回目	望診(舌診)について理解・実践できる。		

準備学習
時間外学習

1・2年次に学習した内容(講義・実習)の知識や技術を総合して授業を行うため、自身の課題を見つけ必要な単元の予習・復習を予め率先して行う。

評価
方法

1. 定期試験
2. 小テスト
3. レポート
4. 課題成果
5. 実地試験

評価方法はGPA制度となります
 100～90点 S
 89～80点 A
 79～70点 B
 69～60点 C
 59点以下 F 不合格

平常点(20%)
 期末試験(80%)

受講生への
メッセージ

最終学年において卒業必要となる臨床能力を確保するための実習を含めながら鍼灸臨床に必要な事項を学んでいく。いくら治療技術が備わっていても正しい診察法・鑑別方法を身に付けていないと、患者に対して満足のいく鍼灸治療を行うことはできません。また臨床に対する姿勢は成績のためではなく、患者のためであり、一人の患者にしっかり向き合えるための臨床能力を身に付けてください。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：ずっと使える！鍼灸臨床BOOK(株)滋慶出版
 新版東洋医学概論・新版経絡経穴概論(医道の日本社)
 配布物：プリント

名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	鍼灸診断学Ⅱ (Acupuncture and Moxibution Pathognomy Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	池田 晋太郎
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間	90	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	3	曜日・時限	火曜日・1～3限

【授業の学習内容】

鍼灸治療では患者に問診を行い、身体診察を行い、証を立て治療を行う。
 3年次に実施される臨床実習においても、先ず一般診療が基本であり、一般診療に関する基本的能力を備えることが求められる。
 鍼灸治療に必要な西洋医学的診察法・東洋医学的診察法を学び、適切な施術を行うための判断力を診察法・施術・効果判定と一連の流れを通して実践的に学んでいく。
 ※実務経験：鍼灸教員課程修了
 鍼灸整骨院にて鍼灸治療に従事し、また登録販売者として医薬品の提案・販売業務にも携わる。

【到達目標】

鍼灸臨床の流れを理解し、四診・各種検査、弁証論治、施術、予後の予測や効果判定などを自分なりに考えを持ち、行えるようにする。

〈具体的な目標〉

- ①患者の状態を正確に把握することができる。
- ②患者の持つ愁訴が鍼灸適応症例なのか病態鑑別を適切に鑑別できるようにする。
- ③鍼灸適応症であると判断された場合の弁証論治、施術、予後の予測や効果判定が適切できるようにする。

授業計画・内容

24回目	腰痛に対する臨床推論が理解・実践できる①	39回目	症例報告の方法を理解・実践できる②
25回目	腰痛に対する臨床推論が理解・実践できる②	40回目	症例報告を行い、学びを共有し、今後の臨床につなげることができる①
26回目	肩関節痛に対する臨床推論が理解・実践できる①	41回目	症例報告を行い、学びを共有し、今後の臨床につなげることができる②
27回目	肩関節痛に対する臨床推論が理解・実践できる②	42回目	症例報告を行い、学びを共有し、今後の臨床につなげることができる③
28回目	膝関節痛に対する臨床推論が理解・実践できる①	43回目	症例報告を行い、学びを共有し、今後の臨床につなげることができる④
29回目	膝関節痛に対する臨床推論が理解・実践できる②	44回目	症例報告を行い、学びを共有し、今後の臨床につなげることができる⑤
30回目	頭痛に対する臨床推論が理解・実践できる①	45回目	試験および講評
31回目	頭痛に対する臨床推論が理解・実践できる②	46回目	試験返却と解説
32回目	しびれに対する臨床推論が理解・実践できる①		
33回目	しびれに対する臨床推論が理解・実践できる②		
34回目	めまいに対する臨床推論が理解・実践できる①		
35回目	めまいに対する臨床推論が理解・実践できる②		
36回目	浮腫に対する臨床推論が理解・実践できる①		
37回目	浮腫に対する臨床推論が理解・実践できる②		
38回目	症例報告の方法を理解・実践できる①		

準備学習
時間外学習

1・2年次に学習した内容(講義・実習)の知識や技術を総合して授業を行うため、自身の課題を見つけ必要な単元の予習・復習を予め率先して行う。

評価
方法

1. 定期試験
2. 小テスト
3. レポート
4. 課題成果
5. 実地試験

評価方法はGPA制度となります
 100～90点 S
 89～80点 A
 79～70点 B
 69～60点 C
 59点以下 F不合格

平常点(20%)
 期末試験(80%)

受講生への
メッセージ

最終学年において卒業必要となる臨床能力を確保するための実習を含めながら鍼灸臨床に必要な事項を学んでいく。いくら治療技術が備わっていても正しい診察法・鑑別方法を身に付けていないと、患者に対して満足のいく鍼灸治療を行うことはできません。また臨床に対する姿勢は成績のためではなく、患者のためであり、一人の患者にしっかりと向き合えるための臨床能力を身に付けてください。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：ずっと使える！鍼灸臨床BOOK(株)滋慶出版
 新版東洋医学概論・新版経絡経穴概論(医道の日本社)
 配布物：プリント

名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	社会はりきゅう学 (Acupuncture and Moxibustion Sociology)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	伊藤 昌幸
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間	30	開講区分	後期
コース	I 部			(単位)	2	曜日・時限	水曜日・1限

【授業の学習内容】

社会はりきゅう学は社会の健康課題に対して鍼灸などの東洋療法を活用し、いかに貢献すべきかを学ぶ分野である。この授業では施術者として社会的ニーズの多様化に適切に対応できる能力を身につけることを目的としている。
実務者経験: 教員養成科修了。個人宅、介護施設などへの往診治療中心の治療院いせやを開業し臨床に携わる。

【到達目標】

社会的ニーズに適切に対応できる能力を身につける。

- ① 治療院開業の手続きを理解する。
- ② 介護保険制度について理解する。
- ③ あはき法について理解する。
- ④ 医療関係の法律について理解する。

授業計画・内容

1回目	現代社会における医療制度①	
2回目	現代社会における医療制度②	
3回目	現代社会における医療制度③	
4回目	地域でのはりきゅうの役割①	
5回目	地域でのはりきゅうの役割②	
6回目	地域でのはりきゅうの役割③	
7回目	現代社会におけるはりきゅうの役割①	
8回目	現代社会におけるはりきゅうの役割②	
9回目	現代社会におけるはりきゅうの役割③	
10回目	現代社会におけるはりきゅうの役割④	
11回目	施術所経営①	
12回目	施術所経営②	
13回目	施術所経営③	
14回目	総復習①	
15回目	総復習②	
準備学習 時間外学習	復習をお願いします。	
評価 方法	・平常点(20%) ・期末試験(筆記)(80%) 評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	① 平常点は欠席・遅刻・早退・忘れ物・提出物の期限・授業態度を減点方式で計算していく。ただし、減点は20%を越える場合は、さらに減点していく。 ② 期末試験は筆記試験を行う。 ③ 成績は①+②の合計とする。
受講生への メッセージ	国家試験出題範囲も内容も含まれていますので、しっかり予習・復習をお願いします。	

【使用教科書・教材・参考書】

教科書: 社会あはき学、関係法規、医療概論、公衆衛生学参考資料: プリント

名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	はり実技 Ⅲ (Acupuncture Practical Skills Ⅲ)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	木下 みどり
学科	鍼灸科	授業 形態	実習	総時間	30	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	1	曜日・時限	金曜日・1限

【授業の学習内容】

WHO「安全性に関するガイドライン」、全日本鍼灸学会「安全対策ガイドライン」等の意図について正しく理解した上で、これまでに履修した各教科の内容に沿い、治療ポイントの選択、刺激量の調節、さらに正しい衛生概念を持った施術の基礎実技を実習するとともに、刺鍼練習台や学生同士による基礎技術の反復練習を通年で行う。長期的・短期的治療方針と施術ポイントと施術手技など、自分で考える力をつけることを目指した実習を行う。

※実務者経験：鍼灸科教員養成課程修了。鍼灸きのしたにて臨床に携わる。

【到達目標】

治療目的、治療効果、生活上の改善点を含めた治療部位の選択、患者に見合った刺激量の調節と安全な手技の習得を目標とする。
 ・解剖学の知識をもとにして、身体各部への安全かつ効果的な刺鍼・施灸手技を習得する。
 ・患者の体格・年齢・性別や症状あるいは部位により、適切な手技を選ぶことについて考え、さらに自分の施鍼・施灸が患者にどのよう に感じられているのかを考えながら、刺激量を調節することを習得する。
 ・患者の訴えや症状から治療・予後の判定へとつなげた一連の施術、あるいは医療機関への引き継ぎの要不要を、総合的に行える力を習得する。

授業計画・内容

1回目	(目標①) 刺鍼中の手技(17手技)を使い分けができる(1) 消毒・刺入・手技について実習する *オリエンテーションを含む
2回目	(目標①) 刺鍼中の手技(17手技)を使い分けができる(2) 西洋医学的な手技について実習する
3回目	(目標①) 刺鍼中の手技(17手技)を使い分けができる(3) 東洋医学的な手技について実習する
4回目	(目標①) 刺鍼中の手技(17手技)を使い分けができる(4) 17手技の使い分けについて実習する
5回目	(目標①②) 禁忌・注意を要する部位・患者への施術についての実習(1) 身体各部の深部構造について考察しながら刺入深度や使用する鍼の選択することを実習する(毫鍼 1)
6回目	(目標①②) 禁忌・注意を要する部位・患者への施術についての実習(2) 身体各部の深部構造について考察しながら刺入深度や使用する鍼の選択することを実習する(毫鍼 2)
7回目	(目標①②) 禁忌・注意を要する部位・患者への施術についての実習(3) 身体各部の深部構造について考察しながら刺入深度や使用する鍼の選択することを実習する(毫鍼 3)
8回目	(目標①②) 禁忌・注意を要する部位・患者への施術についての実習(4) 患者の状況に応じた手技・用具・刺激強度について考察しながら実習する(特殊鍼法)
9回目	(目標②) 患者に見合った施術内容を選択する(1)
10回目	(目標②) 患者に見合った施術内容を選択する(2)
11回目	(目標②) 患者に見合った施術内容を選択する(3)
12回目	定期試験概要説明と総復習
13回目	定期試験(実技1)
14回目	定期試験(実技2)
15回目	定期試験予備日
準備学習 時間外学習	(目標①②) 1年次、2年次に学習し、習得した知識、技術が全て必要となります。各学生において、準備することは異なるかと思いますが、十分な事前学習(復習)が必須 (目標①②) 適宜配布する資料への記入と内容の理解
評価 方法	1. 定期試験(実技)(80%) 2. 平常点 (20%) 評価方法はGPA制度となります 100~90点 S 89~80点 A 79~70点 B 69~60点 C 59点以下 F不合格 定期実技試験は2回に分けて行い、合計で100点とする(評価基準は80%) 1:基礎技術 2:到達目標を念頭に置いた試験とする。 平常点は欠席・遅刻・装備の不備・忘れ物・未提出物・授業態度等を減点方式で計算。 平常点の減点が多い場合はそのまま20%分を超え試験点から減点する。 各減点数はオリエンテーション時に説明する。
受講生への メッセージ	基礎技術の習得が目的ですが、各々の技術力を上げることは卒業後の臨床の場において重要なことです。流行の技術を見真似ることよりも基礎技術、基礎知識をあげることに重きを置いて実習します。プロとして現場に立てるだけの基礎技術をつけてください。また、実技実習を受けるにあたり事前学習が不十分である、また、授業態度が著しく不良であると指導教員が判断した場合には、別室にての学習を行ってもらうことがあります。授業への参加不可、当該時限は欠席扱いになりますので十分に事前の復習を行なって授業に臨んでください。はり実技・きゅう実技を区別せずに授業を進めますので注意してください。
【使用教科書・教材・参考書】	* はりきゅう理論 * 経絡経穴学 * 解剖学 * 東洋医学概論 * 東洋医学臨床論 * 公衆衛生学 各東洋療法学校協会編 教科書 * 北出勝利・篠原昭二編:特殊鍼灸テキスト 医歯薬出版株式会社 * 尾崎昭弘著:図解鍼灸臨床手技マニュアル 医歯薬出版株式会社 * 松本勲著:現代鍼灸臨床の実際 医歯薬出版株式会社 * JESC:ずっと使える! 鍼灸臨床BOOK * 公益社団法人 全日本鍼灸学会 鍼灸安全対策ガイドライン 2020年版

名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	きゅう実技 Ⅲ Moxibustion Practical Skills Ⅲ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	木下 みどり
学科	鍼灸科	授業 形態	実習	総時間	30	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	1	曜日・時限	金曜日・2限

【授業の学習内容】

WHO「安全性に関するガイドライン」、全日本鍼灸学会「安全対策ガイドライン」等の意図について正しく理解した上で、これまでに履修した各教科の内容に沿い、治療ポイントの選択、刺激量の調節、さらに正しい衛生概念を持った施術の基礎実技を実習するとともに、刺学生同士による基礎技術の反復練習を通年で行う。長期的・短期的治療方針と施術ポイントと施術手技など、自分で考える力をつけることを目指した実習を行う。

※実務者経験：鍼灸科教員養成課程修了。鍼灸きのしたにて臨床に携わる。

【到達目標】

治療目的の違いによる治療部位、手技や用具の選択、患者に見合った刺激量の調節と安全な手技の習得を目標とする。

〈具体的な目標〉

- ①1年次、2年次に習得した解剖学ならびに東洋医学の知識をもとにして、身体各部への安全かつ効果的な刺激・施灸技術を習得する。
- ②患者の体格・年齢・性別、愁訴や部位により、適切な手技を選ぶことについて考え、さらに自分の施鍼・施灸が患者にどのように感じられているのかを考えながら、刺激量を調節することを習得する。

授業計画・内容

1回目	(目標①)	治療のための施灸技術の実習(1) 艾炷をそろえる(1: 大きさやかたち)	*オリエンテーションを含む
2回目	(目標①)	治療のための施灸技術の実習(2) 艾炷をそろえる(2: 施灸ポイント)	
3回目	(目標①)	治療のための施灸技術の実習(3) 艾炷をそろえる(3: 刺激量の加減)	
4回目	(目標①)	治療のための施灸技術の実習(4) 指示通りの施灸ができる	
5回目	(目標① ②)	禁忌・注意を要する部位・患者への施術についての実習(1)	効果的な刺激量を決定する 1)
6回目	(目標① ②)	禁忌・注意を要する部位・患者への施術についての実習(2)	効果的な刺激量を決定する 2)
7回目	(目標① ②)	禁忌・注意を要する部位・患者への施術についての実習(3)	効果的な刺激量を決定する 3)
8回目	(目標① ②)	禁忌・注意を要する部位への施術・患者についての実習(4)	患者の状況に応じた手技・用具・刺激強度について考察しながら実習する(特殊鍼法)
9回目	(目標②)	患者に見合った施術内容を選択する(1)	愁訴の受取り方について考え実習する
10回目	(目標②)	患者に見合った施術内容を選択する(2)	治療方針について考え実習する
11回目	(目標②)	患者に見合った施術内容を選択する(3)	治療としての施術の組み立てについて考え実習する
12回目	定期試験概要説明と総復習		
13回目	定期試験(実技1)		
14回目	定期試験(実技2)		
15回目	定期試験予備日		

準備学習
時間外学習 (目標①②) 1年次、2年次に学習し、習得した知識、技術が全て必要となります。各学生において、準備することは異なるかと思いますが、十分な事前学習(復習)が必須
(目標①②) 適宜配布する資料への記入と内容の理解

評価 方法	1. 定期試験(実技)(80%) 2. 平常点 (20%)	評価方法はGPA制度となります 100~90点 S 89~80点 A 79~70点 B 69~60点 C 59点以下 F不合格	定期実技試験は2回に分けて行い、合計で100点とする(評価基準は80%) 1:基礎技術 2:到達目標を念頭に置いた試験とする。 平常点は欠席・遅刻・装備の不備・忘れ物・未提出物・授業態度等を減点方式で計算。 平常点の減点が多い場合はそのまま20%分を超え試験点から減点する。 各減点数はオリエンテーション時に説明する。
----------	----------------------------------	--	--

受講生への
メッセージ
基礎技術の習得が目的ですが、各々の技術力を上げることは卒業後の臨床の場において重要なことです。流行の技術を見真似ることよりも基礎技術、基礎知識をあげることに重きを置いて実習します。プロとして臨床現場に立てるだけの基礎技術をつけてください。また、実技実習を受けるにあたり事前学習が不十分である、また、授業態度が著しく不良であると指導教員が判断した場合には、別室にての学習を行ってもらうことがあります。授業への参加不可、当該時限は欠席扱いになりますので十分に事前の復習を行なって授業に臨んでください。 はり実技・きゅう実技を区別せずに授業を進めますので注意してください。

【使用教科書・教材・参考書】

* はりきゅう理論 * 経絡経穴学 * 解剖学 * 東洋医学概論 * 東洋医学臨床論 * 公衆衛生学 各東洋療法学校協会編 教科書
* 北出勝利・篠原昭二編: 特殊鍼灸テキスト 医歯薬出版株式会社 * 尾崎昭弘著: 図解鍼灸臨床手技マニュアル 医歯薬出版株式会社 * 松本勲著: 現代鍼灸臨床の実際 医歯薬出版株式会社 * JESC: ずっと使える! 鍼灸臨床BOOK * 公益社団法人 全日本鍼灸学会 鍼灸安全対策ガイドライン 2020年版

名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	臨床実習Ⅱ (Clinical Practice Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	木下 みどり
学科	鍼灸科	授業 形態	実習	総時間	90	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	2	曜日・時限	金曜日・1～3限

【授業の学習内容】

1、2年で学んだことをもとに、西洋医学的な診察、東洋医学的診察の流れを講義、実習を通して実践的学ぶ。カルテの書き方、診察、治療の進め方、経過の追い方などを総合的に学習し卒業後の臨床に結びつける。
また、適宜小テストを行い、各自の不足している部分を確認し、事後の学習に活かす。
※実務者経験：鍼灸科教員養成課程修了。鍼灸きのしたにて臨床に携わる。

【到達目標】

鍼灸臨床の流れを理解し、適切に行うことができる。POS方式で医療面接、身体検査により得られた情報から患者の愁訴の原因を推測し、治療方針、治療方法について考え治療を行えることができる。

<具体的な目標>

目標①医療人として常識的な立ち居振る舞い、言葉遣いができる。目標②患者との適切なコミュニケーションを図ることができる。

目標③各種身体検査の意義、意味を知り、適切に行うことができる。

目標④カルテ記載に必要な項目の意味を学習し、聴取することができる。目標⑤①～④までを総合し治療を行える。

授業計画・内容

1回目	カルテ記載事項を読み解くことができる。	16回目	患者に対する確な治療を組立、実践できる(1)
2回目	患者の病態を把握するための問診ができる(1)	17回目	患者に対する確な治療を組立、実践できる(2)
3回目	患者の病態を把握するための問診ができる(2)	18回目	患者に対する確な治療を組立、実践できる(3)
4回目	患者の病態を把握するための検査ができる(1)	19回目	患者に対する確な治療を組立、実践できる(4)
5回目	患者の病態を把握するための検査ができる(2)	20回目	患者に対する確な治療を組立、実践できる(5)
6回目	患者の病態を把握するための検査ができる(3)	21回目	患者に対する確な治療を組立、実践できる(6)
7回目	患者の病態を把握するための検査ができる(4)	22回目	患者に対する確な治療を組立、実践できる(7)
8回目	患者の病態を把握し確な治療を組立できる(1)	23回目	患者に対する確な治療を組立、実践できる(8)
9回目	患者の病態を把握し確な治療を組立できる(2)		
10回目	患者の病態を把握し確な治療を組立できる(3)		
11回目	患者の病態を把握し確な治療を組立できる(4)		
12回目	患者の病態を把握し確な治療を組立できる(5)		
13回目	正確なカルテ記載ができる(1)		
14回目	正確なカルテ記載ができる(2)		
15回目	患者の病態を把握し確な治療を組立できる(6)		

準備学習
時間外学習
この授業には、3年間学んだすべての科目の知識・技術が必要となることから、自身の不足などを見つけ、課題に取り組むことや必要な単元の予習・復習が必要不可欠。
患者に施術をするにあたり基礎技術練習を繰り返し行うことや基礎科目の十分な研鑽が必要。提出物の完成度だけでなく施術技術や基本知識の復習を行うこと。

評価 方法	1. 定期試験 2. 小テスト 3. レポート 4. 課題成果 5. 実地試験	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	認定実技試験(30%)小テスト(20%) 提出物(30%) 授業態度(20%)
----------	---	--	--

受講生への
メッセージ
最終学年として、卒業必要となる臨床能力を確保するため実習を含めながら鍼灸臨床に必要な事項を学んでいく。後半は症例検討を通して考える力を養う。この時間をとおして、1年、2年で学んだ内容を個々の科目としてではなく、包括的に復習し、学習が足りていないところは自ら復習をし、さらなる研鑽に励む「自調自考」の姿勢を養い、臨床に必要な基礎能力を身につけて下さい。各自の臨床姿勢は成績のためではなく、「患者のため」であることを念頭に置いておくこと。

【使用教科書・教材・参考書】

参考書：はりきゅう理論・経絡経穴学・解剖学・臨床各論・東洋医学臨床論・公衆衛生学：各東洋療法学校協会編北出勝利・篠原昭二編：特殊鍼灸テキスト 医歯薬出版株式会社
 松本勲著：現代鍼灸臨床の実際 医歯薬出版株式会社
 JESC：ずっと使える！鍼灸臨床BOOK ほか 各教科配付教材、副読本、図書館蔵書の利用をすすめる

名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	臨床実習Ⅱ (Clinical Practice Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	木下 みどり
学科	鍼灸科	授業 形態	実習	総時間	90	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	2	曜日・時限	金曜日・1～3限

【授業の学習内容】

1、2年で学んだことをもとに、西洋医学的な診察、東洋医学的診察の流れを講義、実習を通して実践的学ぶ。カルテの書き方、診察、治療の進め方、経過の追い方などを総合的に学習し卒業後の臨床に結びつける。
また、適宜小テストを行い、各自の不足している部分を確認し、事後の学習に活かす。
※実務者経験：鍼灸科教員養成課程修了。鍼灸きのしたにて臨床に携わる。

【到達目標】

鍼灸臨床の流れを理解し、適切に行うことができる。POS方式で医療面接、身体検査により得られた情報から患者の愁訴の原因を推測し、治療方針、治療方法について考え治療を行えることができる。

<具体的な目標>

目標①医療人として常識的な立ち居振る舞い、言葉遣いができる。目標②患者との適切なコミュニケーションを図ることができる。

目標③各種身体検査の意義、意味を知り、適切に行うことができる。

目標④カルテ記載に必要な項目の意味を学習し、聴取することができる。目標⑤①～④までを総合し治療を行える。

授業計画・内容

24回目	患者の病態を把握し的確な治療を行うことができる。	39回目	患者の病態を把握し的確な治療を行うことができる。
25回目	患者の病態を把握し的確な治療を行うことができる。	40回目	患者の病態を把握し的確な治療を行うことができる。
26回目	患者の病態を把握し的確な治療を行うことができる。	41回目	患者の病態を把握し的確な治療を行うことができる。
27回目	患者の病態を把握し的確な治療を行うことができる。	42回目	患者の病態を把握し的確な治療を行うことができる。
28回目	患者の病態を把握し的確な治療を行うことができる。	43回目	患者の病態を把握し的確な治療を行うことができる。
29回目	患者の病態を把握し的確な治療を行うことができる。	44回目	患者の病態を把握し的確な治療を行うことができる。
30回目	患者の病態を把握し的確な治療を行うことができる。	45回目	患者の病態を把握し的確な治療を行うことができる。
31回目	患者の病態を把握し的確な治療を行うことができる。	46回目	患者の病態を把握し的確な治療を行うことができる。
32回目	患者の病態を把握し的確な治療を行うことができる。		
33回目	患者の病態を把握し的確な治療を行うことができる。		
34回目	患者の病態を把握し的確な治療を行うことができる。		
35回目	患者の病態を把握し的確な治療を行うことができる。		
36回目	患者の病態を把握し的確な治療を行うことができる。		
37回目	患者の病態を把握し的確な治療を行うことができる。		
38回目	患者の病態を把握し的確な治療を行うことができる。		

準備学習
時間外学習

この授業には、3年間学んだすべての科目の知識・技術が必要となることから、自身の不足などを見つけ、課題に取り組むことや必要な単元の予習・復習が必要不可欠。
患者に施術をするにあたり基礎技術練習を繰り返し行うことや基礎科目の十分な研鑽が必要。提出物の完成度だけではなく施術技術や基本知識の復習を行うこと。

評価 方法	1. 定期試験 2. 小テスト 3. レポート 4. 課題成果 5. 実地試験	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	認定実技試験(30%)小テスト(20%) 提出物(30%) 授業態度(20%)
----------	---	--	--

受講生への
メッセージ

最終学年として、卒業必要となる臨床能力を確保するため実習を含めながら鍼灸臨床に必要な事項を学んでいく。後半は症例検討を通して考える力を養う。この時間とおして、1年、2年で学んだ内容を個々の科目としてではなく、包括的に復習し、学習が足りていないところは自ら復習をし、さらなる研鑽に励む「自調自考」の姿勢を養い、臨床に必要な基礎能力を身につけて下さい。各自の臨床姿勢は成績のためではなく、「患者のため」であることを念頭に置いておくこと。

【使用教科書・教材・参考書】

参考書：はりきゅう理論・経絡経穴学・解剖学・臨床各論・東洋医学臨床論・公衆衛生学：各東洋療法学校協会編北出勝利・篠原昭二編：特殊鍼灸テキスト 医歯薬出版株式会社
 松本勲著：現代鍼灸臨床の実際 医歯薬出版株式会社
 JESC：ずっと使える！鍼灸臨床BOOK ほか 各教科配付教材、副読本、図書館蔵書の利用をすすめる

名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	臨床実習Ⅲ (Clinical PracticeⅢ)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	梅村・高橋 (臨床実習指導者)
学科	鍼灸科	授業 形態	実習	総時間	45	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	1	曜日・時限	火曜日・1～3限 外部実習

【授業の学習内容】

鍼灸臨床に関わる施設を見学実習することにより、現場力を身につける。

実務者経験

梅村：大学院鍼灸学研究所博士前期課程(修士課程)修了。附属病院内の各診療科(全12診療科)の医療業務に関り、入院患者を含めて鍼灸施術を実施。附属鍼灸センターなどにて鍼灸施術を実施。リハビリテーション室では物理療法として鍼灸施術を実施。

高橋：鍼灸按摩マッサージ教員免許。

【到達目標】

鍼灸臨床の流れを理解し、適切に行うことができる。

<具体的な目標>

目標①医療人として常識的な立ち居振る舞い、言葉遣いができる。目標②患者との適切なコミュニケーションを図ることができる。

目標③各種身体検査の意義、意味を知り、適切に行うことができる。

目標④カルテ記載に必要な項目の意味を学習し、聴取することができる。目標⑤①～④までを総合し治療を行える。

目標⑥社会人としての一般常識を身につけ、現場での適切なコミュニケーションをはかることができる。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション
2回目	1)職業人としての態度・適正(基本的対話スキル、自己表現スキル、社会的スキル、サービスマインド) 1:常識的態度や責任のある行動を身につける。
3回目	1-1 時間や約束を守る。 1-2 その場にふさわしい服装や身なりを整える。 1-3 礼儀正しい行動をとる。 1-4 公私を
4回目	区別する。
5回目	1-5 守秘義務を果たす。
6回目	2:対象者および家族と望ましい人間関係を持つ。
7回目	3:意欲的に取り組む姿勢(探究心・創造性)を持つ。
8回目	3-1 疑問点を列挙する。 4-2 必要に応じて質問する。 4-3 自分の意見を述べる。
9回目	2)記録・報告
10回目	4:記録すべき必要な事項を選択し、記録する。 4-1選択した必要な事項を記録する。
11回目	5:報告すべき必要な事項を選択し、報告する。
12回目	5-1報告すべき必要な事項を選択する。 8-2選択した必要な事項を報告する。
13回目	3)管理運営
14回目	6:組織の概要を理解する。
15回目	6-1地域における施設の役割について理解する。
	6-2施設におけるはり師、きゅう師の役割について理解する。 6-3他職種とはり師、きゅう師との関係を理解する。

準備学習 時間外学習	この授業には、3年間学んだすべての科目の知識・技術が必要となることから、自身で課題を見つけ必要な予習・復習を行って臨むこと。
---------------	--

評価 方法	1. 定期試験(%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(50%) 4. 課題成果(50%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	臨床実習施設・指導者のもと、実際の業務を経験見学する。
----------	--	--	-----------------------------

受講生への メッセージ	最終学年において、卒後必要となる臨床能力を確保するため実習を含めながら鍼灸臨床および現場に必要な事項を学んでいく。この時間を通して、1年、2年で学んだ内容を個々の科目としてではなく、包括的に復習し、学習が足りていないところは自ら復習をし、さらなる研鑽に励む「自調自考」の姿勢を養い、臨床に必要な基礎能力を身につけて下さい。
----------------	---

【使用教科書・教材・参考書】

ずっと使える!鍼灸臨床BOOK:滋慶出版、つちや書店、コミュニケーションスキルアップ検定(JESC)

名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	総合医学特論Ⅲ (Holistic Medical TheoryⅢ)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	池田 晋太郎
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間	60	開講区分	前期・後期
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	4	曜日・時限	月曜日・3限

【授業の学習内容】

模擬店を出店し、企画・運営・コミュニケーションの方法を学習する。
 スポーツを通じて、チームワークや運動が体に与える変化について学習する。3年間の学習を復習する。
 ※実務経験: 鍼灸教員養成課程修了
 鍼灸整骨院にて鍼灸治療に従事し、また登録販売者として医薬品の提案・販売業務にも携わる。

【到達目標】

はり師、きゅう師を業とするにあたり、臨床で患者の病態の理解を深めるための資料の検索ができる。臨床に必要な技術・知識を研鑽していく意識を持つことができる。
 自らの経験や知識を定量化することができる。多職種連携や患者とのコミュニケーションを円滑に行うことができる。

授業計画・内容

1回目	専門基礎テスト	16回目	西洋医学科目総復習(解剖学①)
2回目	JESC模試①	17回目	西洋医学科目総復習(解剖学②)
3回目		18回目	西洋医学科目総復習(解剖学③)
4回目	医健祭1日目 模擬店を出店し、企画・運営を円滑に行うことができる。	19回目	西洋医学科目総復習(生理学①)
5回目	医健祭2日目 模擬店を出店し、企画・運営を円滑に行うことができる。	20回目	西洋医学科目総復習(生理学②)
6回目	JESC模試②	21回目	西洋医学科目総復習(生理学③)
7回目		22回目	西洋医学科目総復習(臨床医学各論①)
8回目	生体制御学会 学術大会に参加し、臨床に必要な情報を学習することができる。	23回目	西洋医学科目総復習(臨床医学各論②)
9回目	JESC模試③	24回目	西洋医学科目総復習(臨床医学各論③)
10回目		25回目	東洋医学科目総復習①
11回目	学校協会模試	26回目	東洋医学科目総復習②
12回目		27回目	東洋医学科目総復習③
13回目	スポーツ大会	28回目	東洋医学科目総復習④
14回目	JESC模試④	29回目	実力試験
15回目		30回目	実力試験
準備学習 時間外学習	自らテーマを決め、研究発表をするために必要なステップ(情報収集、実験、文献検索、まとめ、資料作成)を行う必要がある。		
評価 方法	1. 定期試験 2. 小テスト 3. レポート 4. 課題成果 5. 実地試験	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	出席率(80%)、学習態度、提出物(20%)
受講生への メッセージ	この科目は、はり師、きゅう師に必要な学問及び社会性の仕上げとなる科目です。模擬店による経営法、学術大会参加による学習し続ける姿勢、特論系の科目の復習による知識の掘り下げをしていきます。業界や他職種の業界人とのコミュニケーションをはかること。チーム医療に参加するのに必要なコミュニケーション力を養うこと。卒後、臨床に進むにあたり自ら学び、研鑽する意識を養うことを目標にします。知見を広めましょう。		

【使用教科書・教材・参考書】

適宜、必要と思われるもの。

名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	西洋医学特論 I (Western Medical Theory I)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	小泉 直子
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間	60	開講区分	後期
コース	昼間 I 部			(単位)	2	曜日・時限	火・水・木曜日 1・2・3限

【授業の学習内容】

基礎医学から臨床医学を考えることにより、暗記で症状を覚えるなどを避け、疾患や症状の理解をすることが、鍼灸師として携われるかどうかを判断するに必要な知識となります。状況によっては速やかに医療機関へ送るなどの処置ができるようにしていきます。

※鍼灸按摩マッサージ教員免許

【到達目標】

臨床では様々な疾患を持つ患者が来院する事が多い。このような患者に対して、習得した知識を元に、患者と接した際に必要な対応ができるようにする。
[具体的な到達目標]

目標①それぞれの疾患に対して説明ができるようにする。

目標②それぞれの疾患を持つ患者に対して、より愛護的に接することができるようにする。

目標③必要があれば、速やかに医療機関に送る判断ができるようにする。

授業計画・内容

1回目	側彎症について説明できる
2回目	足部の構造と機能、外反母趾、内反足について説明できる
3回目	感覚神経、脊椎の構造と機能について説明できる
4回目	椎間板ヘルニアについて説明できる
5回目	後縦靭帯骨化症、黄色靭帯骨化症について説明できる
6回目	脊椎分離症・脊椎すべり症、変性すべり症について説明できる
7回目	頸部変形性脊椎症、腰部変形脊椎症について説明できる
8回目	頸部脊柱管狭窄症、腰部脊柱管狭窄症について説明できる
9回目	腰痛症、後彎症、頸椎捻挫、むち打ち損傷について説明できる
10回目	脊髄損傷について説明できる
11回目	骨折の概念について説明できる
12回目	骨折の概念、大腿骨頸部骨折、高齢者の上腕骨近位部骨折について説明できる
13回目	コーレス骨折、鎖骨骨折、上腕骨顆上骨折について説明できる
14回目	脱臼の概念、肩関節脱臼、股関節脱臼、肘内障について説明できる
15回目	捻挫、スポーツ障害の概念、テニス肘・上腕骨外側上顆炎について説明できる

準備学習
時間外学習
この授業を受けるには、解剖学、生理学、病理学などの基礎医学の理解が必要です。これらの予習を行い授業に臨むようにして下さい。また、理解を深めるために、復習を欠かさないで下さい。

評価 方法	1. 定期試験 2. 小テスト 3. レポート 4. 課題成果 5. 実地試験	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	卒業試験をもって判断する。
----------	---	---	---------------

受講生への
メッセージ
鍼灸師が接する患者さんの中には、内蔵疾患や重度の神経疾患等の病気を持っている方もいらっしゃいます。このような方々は自分の病気に詳しいことも多いですが、さらに様々な質問もしてきます。病気を知ることによって、どこまで鍼灸師として関わられるかを見極める能力を養って下さい。

【使用教科書・教材・参考書】

臨床医学各論教科書、臨床医学各論追加資料、解剖学教科書、生理学教科書、入門解剖人体解剖学、配布プリント

名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	西洋医学特論 I (Western Medical Theory I)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	小泉 直子
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間	60	開講区分	後期
コース	昼間 I 部			(単位)	2	曜日・時限	火・水・木曜日 1・2・3限

【授業の学習内容】

基礎医学から臨床医学を考えることにより、暗記で症状を覚えるなどを避け、疾患や症状の理解をすることが、鍼灸師として携われるかどうかを判断するに必要な知識となります。状況によっては速やかに医療機関へ送るなどの処置ができるようにしていきます。

※鍼灸按摩マッサージ教員免許

【到達目標】

臨床では様々な疾患を持つ患者が来院する事が多い。このような患者に対して、習得した知識を元に、患者と接した際に必要な対応ができるようにする。

【具体的な到達目標】

目標①それぞれの疾患に対して説明ができるようにする。

目標②それぞれの疾患を持つ患者に対して、より愛護的に接することができるようにする。

目標③必要があれば、速やかに医療機関に送る判断ができるようにする。

授業計画・内容

16回目	ジャンパー膝、胸郭出口症候群について説明できる
17回目	頸腕症候群・頸肩腕症候群、ガングリオンについて説明できる
18回目	手の構造と機能、手根管症候群、正中神経について説明できる
19回目	肩甲上神経障害、橈骨神経麻痺、尺骨神経障害について説明できる
20回目	坐骨神経、総腓骨神経麻痺、脛骨神経麻痺について説明できる
21回目	小児科疾患(小児神経症、小児夜尿症、夜驚症)について説明できる
22回目	一般外科(損傷概論、膿瘍、熱傷)について説明できる
23回目	一般外科(凍瘡と凍傷、ショックの概念、循環血液量減少性ショック)について説明できる
24回目	一般外科(心原性ショック、心外閉塞拘束性ショック、血液分布異常性ショック)について説明できる
25回目	播種性血管内凝固症候群、D-ダイマー、血管の構造、一般外科(出血と止血)について説明できる
26回目	ウイルスと細菌の違い、一般外科(瘡、癰、蜂巣炎、ひょう疽、丹毒)について説明できる
27回目	一般外科(リンパ節炎、化膿性筋炎、急性・慢性化膿性骨髄症、ガス壊疽)について説明できる
28回目	一般外科(破傷風、結核)について説明できる
29回目	一般外科(肛門周囲膿瘍、脳膿瘍、虫垂炎、消化性潰瘍)について説明できる
30回目	一般外科(救急処置、心肺蘇生術)について説明できる

準備学習
時間外学習

この授業を受けるには、解剖学、生理学、病理学などの基礎医学の理解が必要です。これらの予習を行い授業に臨むようにして下さい。また、理解を深めるために、復習を欠かさないで下さい。

評価 方法	1. 定期試験 2. 小テスト 3. レポート 4. 課題成果 5. 実地試験	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	卒業試験をもって判断する。
----------	---	---	---------------

受講生への
メッセージ

鍼灸師が接する患者さんの中には、内蔵疾患や重度の神経疾患等の病気を持っている方もいらっしゃいます。このような方々は自分の病気に詳しいことも多いですが、さらに様々な質問もしてきます。病気を知ることによって、どこまで鍼灸師として関わられるかを見極める能力を養って下さい。

【使用教科書・教材・参考書】

臨床医学各論教科書、臨床医学各論追加資料、解剖学教科書、生理学教科書、入門解剖人体解剖学、配布プリント

名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	西洋医学特論Ⅱ (Western Medical Theory Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	遠藤 久子・中里 亮太
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間	60	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	2	曜日・時限	月・金曜日 2限

【授業の学習内容】

解剖学、生理学、リハビリテーション医学を中心に、主に基礎医学の復習を徹底して総合的な理解を深める。国家試験の過去問や、模試などを通じて問題の読解に慣れながら力を付ける。

※実務者経験

遠藤：鍼灸按摩マッサージ教員免許

中里：鍼灸教員養成課程修了。よみうりランド鍼灸整骨院にて臨床に携わる。

【到達目標】

学内の卒業試験や国家試験の合格するための基礎力、応用力を身に着ける。

授業計画・内容

1回目	生理学の基礎の要点を復習する。	16回目	医療概論・公衆衛生学復習(1)
2回目	循環の要点を復習する。	17回目	医療概論・公衆衛生学復習(2)
3回目	血液の要点を復習する。	18回目	病理学復習(1)基礎、病因
4回目	呼吸の要点を復習する。	19回目	病理学復習(2)循環、進行性病変、退行性病変
5回目	消化吸収の要点を復習する。	20回目	病理学復習(3)免疫・アレルギー反応
6回目	体温の要点を復習する。	21回目	病理学復習(4)腫瘍・遺伝子異常
7回目	代謝の要点を復習する。	22回目	まとめ
8回目	内分泌の要点を復習する。	23回目	臨床医学総論復習(1)
9回目	排泄の要点を復習する。	24回目	臨床医学総論復習(2)
10回目	生殖の要点を復習する。	25回目	臨床医学総論復習(3)
11回目	中枢神経の要点を復習する。	26回目	臨床医学総論復習(4)
12回目	末梢神経の要点を復習する。	27回目	関係法規復習(1)
13回目	筋(生理学)の要点を復習する。	28回目	関係法規復習(2)
14回目	筋(解剖学)の要点を復習する。	29回目	まとめ
15回目	免疫学の要点を復習する。	30回目	まとめ

準備学習
時間外学習

特に復習をよく行うこと。
問題演習などを通して自分の理解が進んでない部分をしっかりと見直し、解きなおして同じような問題で二度と躓かないようにしあげておくこと。

評価
方法

1. 定期試験(100%)
2. 小テスト
3. レポート
4. 課題成果
5. 実地試験

評価方法はGPA制度となります
100～90点 S
89～80点 A
79～70点 B
69～60点 C
59点以下 F不合格

卒業試験をもって判断する。

受講生への
メッセージ

国家試験の合格には理解が欠かせない教科です。分かるまで伝えます。必ず合格しましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書とこれまでに学習したノートやプリントなど。

名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	東洋医学特論 I (Oriental Medical Theory I)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	梅村 勇介・池田 晋太郎
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間	30	開講区分	後期
コース	昼間 I 部			(単位)	1	曜日・時限	月曜日・3限

【授業の学習内容】

施術者として鍼灸治療を行うにあたり、様々な疾患に対応した力が求められる。
この授業では、疾患に対して現代医学的観点または東洋医学的観点から各々の特徴を捉え、知識を養っていく。
※実務経験
梅村：大学院鍼灸学研究科博士前期課程(修士課程)修了。附属病院内の各診療科(全12診療科)の医療業務に関り、入院患者を含めて鍼灸施術を実施。附属鍼灸センターなどにて鍼灸施術を実施。リハビリテーション室では物理療法として鍼灸施術を実施。
池田：鍼灸教員養成課程修了。鍼灸整骨院にて鍼灸治療に従事し、また登録販売者として医薬品の提案・販売業務にも携わる。

【到達目標】

各疾患において現代医学的、東洋医学的観点から疾患に対する概念・特徴・所見・治療方針を学習し、臨床に応用できる力を身に付けていく。

授業計画・内容

1回目	現代医学的治療原則について理解できる	
2回目	東洋医学的治療原則について理解できる	
3回目	全身の症候に対する鍼灸治療について理解できる	
4回目	呼吸・循環器疾患に対する鍼灸治療について理解できる	
5回目	消化器疾患に対する鍼灸治療について理解できる	
6回目	腎・泌尿器疾患に対する鍼灸治療について理解できる	
7回目	代謝・内分泌・自己免疫疾患に対する鍼灸治療について理解できる	
8回目	精神心理・感覚器疾患に対する鍼灸治療について理解できる	
9回目	婦人科・小児・高齢者疾患に対する鍼灸治療について理解できる	
10回目	神経疾患に対する鍼灸治療について理解できる	
11回目	運動器疾患に対する鍼灸治療について理解できる	
12回目	スポーツ疾患に対する鍼灸治療について理解できる	
13回目	鍼術・灸術における基礎知識と術式について理解できる	
14回目	鍼灸治効の基礎・一般治効理論について理解できる	
15回目	東洋医学系総復習	
準備学習 時間外学習	1・2年次に学習した東洋医学概論、経絡経穴概論、東洋医学臨床論、はりきゅう理論を中心に復習をしっかりと行う。	
評価 方法	1. 定期試験(100%) 2. 小テスト 3. レポート 4. 課題成果 5. 実地試験	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格 卒業試験をもって判断する。
受講生への メッセージ	この授業では、主に東洋医学臨床論とはりきゅう理論の国家試験対策を行います。東洋系科目以外にも、現代系科目(解剖学・臨床医学総論・臨床医学各論)の知識が必須になります。範囲は膨大ではありますが、鍼灸臨床にも活かせるように、一つ一つ学習した内容を整理していきましょう。	
【使用教科書・教材・参考書】 教科書：新版東洋医学概論(医道の日本社)新版経絡経穴概論(医道の日本社) 東洋医学臨床論 はりきゅう編(医道の日本社)		

名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	東洋医学特論Ⅱ (Oriental Medical Theory II)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	伊藤 昌幸
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間	30	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	1	曜日・時限	水曜3限・金曜1.2限

【授業の学習内容】

国家試験に向けて、1・2年時の東洋医学を理解する。それによって、「東洋医学概論」「東洋医学臨床論」の範囲が理解できるようになる。

実務者経験:教員養成科修了。個人宅、介護施設などへの往診治療中心の治療院いせやを開業し臨床に携わる。

【到達目標】

- ①東洋医学の生理観・病理観が理解できる。
- ②病態把握が理解できる。
- ③弁証論治が理解できる。

授業計画・内容

1回目	生体物質について理解できる。①
2回目	生体物質について理解できる。②
3回目	生体物質について理解できる。③
4回目	肝胆の生理、病理について理解できる。
5回目	心小腸の生理、病理について理解できる。
6回目	脾胃の生理、病理について理解できる。
7回目	肺大腸の生理、病理について理解できる。
8回目	腎膀胱の生理、病理について理解できる。
9回目	臓腑の相互関係について理解できる。
10回目	十二経脈、奇経八脈について理解できる。
11回目	病因病機について理解できる。
12回目	四診について理解できる。①
13回目	四診について理解できる。②
14回目	弁証論治について理解できる。
15回目	まとめ

準備学習 時間外学習	1、2年の復習をしっかりとってください。	
---------------	----------------------	--

評価 方法	1. 定期試験(100%) 2. 小テスト 3. レポート 4. 課題成果 5. 実地試験	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	卒業試験をもって判断する。
----------	---	--	---------------

受講生への メッセージ	国家試験に向けて、知識を蓄えましょう。
----------------	---------------------

【使用教科書・教材・参考書】教科書: 東洋医学概論

参考資料: プリント等

名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	臨床医学特論 I (Clinical Medicine Theory I)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	小泉 直子
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間	30	開講区分	後期
コース	昼間 I 部			(単位)	1	曜日・時限	火・水・木曜日 1・2・3限

【授業の学習内容】

基礎医学から臨床医学を考えることにより、暗記で症状を覚えるなどを避け、疾患や症状の理解をすることが、鍼灸師として携われるかどうかを判断するに必要な知識となります。状況によっては速やかに医療機関へ送るなどの処置ができるようにしていきます。

※鍼灸按摩マッサージ教員免許

【到達目標】

臨床では様々な疾患を持つ患者が来院する事が多い。このような患者に対して、習得した知識を元に、患者と接した際に必要な対応ができるようにする。
【具体的な到達目標】

目標①それぞれの疾患に対して説明ができるようにする。

目標②それぞれの疾患を持つ患者に対して、より愛護的に接することができるようにする。

目標③必要があれば、速やかに医療機関に送る判断ができるようにする。

授業計画・内容

1回目	脳室と髄膜の構造と機能、一般外科(麻酔の概念、全身麻酔)について説明できる
2回目	一般外科(局所麻酔:脊髄クモ膜下麻酔、硬膜外麻酔、表面麻酔、浸潤麻酔、神経ブロック)について説明できる
3回目	女性器、女性ホルモン、性周期、婦人科疾患(子宮頸癌)について説明できる
4回目	婦人科疾患(子宮体癌、子宮内膜症、子宮筋腫)について説明できる
5回目	乳腺の解剖と機能、婦人科疾患(乳癌、乳腺炎、乳腺症)について説明できる
6回目	婦人科疾患(更年期障害、月経異常、月経前症候群)について説明できる
7回目	I型アレルギー反応とIV型アレルギー反応、皮膚の構造、皮膚科疾患(接触性皮膚炎)について説明できる
8回目	皮膚科疾患(アトピー性皮膚炎、じんま疹、湿疹、円形成脱毛症)について説明できる
9回目	眼の構造と機能、眼科疾患(結膜炎、角膜炎)について説明できる
10回目	眼科疾患(麦粒腫、白内障、緑内障)について説明できる
11回目	眼科疾患(眼精疲労、ドライアイ、飛蚊症、加齢黄斑変性症)について説明できる
12回目	眼科疾患(ぶどう膜炎、ペーチェット病、サルコイドーシス、フォークター小柳-原田病)について説明できる
13回目	眼科疾患(糖尿病性網膜症、網膜剥離)、糖尿病について説明できる
14回目	耳の構造と機能、耳鼻科疾患(メニエール病)について説明できる
15回目	耳鼻科疾患(中耳炎、突発性難聴、良性発作性頭位めまい症)について説明できる

準備学習
時間外学習
この授業を受けるには、解剖学、生理学、病理学などの基礎医学の理解が必要です。これらの予習を行い授業に臨むようにして下さい。また、理解を深めるために、復習を欠かさないで下さい。

評価 方法	1. 定期試験 2. 小テスト 3. レポート 4. 課題成果 5. 実地試験	評価方法はGPA制度となります 100~90点 S 89~80点 A 79~70点 B 69~60点 C 59点以下 F 不合格	卒業試験をもって判断する。
----------	---	---	---------------

受講生への
メッセージ
鍼灸師が接する患者さんの中には、内蔵疾患や重度の神経疾患等の病気を持っている方もいらっしゃいます。このような方々は自分の病気に詳しいことも多いですが、さらに様々な質問もしてきます。病気を知ることによって、どこまで鍼灸師として関わられるかを見極める能力を養って下さい。

【使用教科書・教材・参考書】

臨床医学各論教科書、臨床医学各論追加資料、解剖学教科書、生理学教科書、入門解剖人体解剖学、配布プリント

名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	臨床医学特論Ⅱ (Clinical Medicine TheoryⅡ)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	小泉 直子
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間	30	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	1	曜日・時限	火・水・木曜日 1・2・3限

【授業の学習内容】

基礎医学から臨床医学を考えることにより、暗記で症状を覚えるなどを避け、疾患や症状の理解をすることが、鍼灸師として携われるかどうかを判断するに必要な知識となります。状況によっては速やかに医療機関へ送るなどの処置ができるようにしていきます。

※鍼灸按摩マッサージ教員免許

【到達目標】

臨床では様々な疾患を持つ患者が来院する事が多い。このような患者に対して、習得した知識を元に、患者と接した際に必要な対応ができるようにする。
【具体的な到達目標】

目標①それぞれの疾患に対して説明ができるようにする。

目標②それぞれの疾患を持つ患者に対して、より愛護的に接することができるようにする。

目標③必要があれば、速やかに医療機関に送る判断ができるようにする。

授業計画・内容

1回目	耳鼻科疾患(前庭神経炎、耳管機能狭窄症、耳管開放症)について説明できる
2回目	耳鼻科疾患(アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎、扁桃周囲炎、)について説明できる
3回目	耳鼻科疾患(声帯ポリープ、咽頭癌、喉頭癌)について説明できる
4回目	精神科疾患(神経症、統合失調症、うつ病、双極性障害、うつ状態、躁状態)について説明できる
5回目	精神科疾患(アルコール依存症、パニック障害、全般性不安障害、社会不安障害)について説明できる
6回目	精神科疾患(むずむず脚症候群、せん妄、自閉症スペクトラム)について説明できる
7回目	精神科疾患(注意欠陥多動性障害、心的外傷後ストレス障害)について説明できる
8回目	心療内科(心身症、神経性食欲不振症、神経性過食症)について説明できる
9回目	加齢に伴う疾患(フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドローム)について説明できる
10回目	脳の血管の分布と脳血管障害(脳梗塞と一過性脳虚血)について説明できる
11回目	脳内出血、クモ膜下出血、髄膜炎について説明できる
12回目	神経梅毒、ポリオについて説明できる
13回目	パーキンソン病、脳性麻痺について説明できる
14回目	認知症、進行性筋ジストロフィーについて説明できる
15回目	筋萎縮性側索硬化症、ギランバレー症候群について説明できる

準備学習
時間外学習
この授業を受けるには、解剖学、生理学、病理学などの基礎医学の理解が必要です。これらの予習を行い授業に臨むようにして下さい。また、理解を深めるために、復習を欠かさないで下さい。

評価 方法	1. 定期試験 2. 小テスト 3. レポート 4. 課題成果 5. 実地試験	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	卒業試験をもって判断する。
----------	---	---	---------------

受講生への
メッセージ
鍼灸師が接する患者さんの中には、内蔵疾患や重度の神経疾患等の病気を持っている方もいらっしゃいます。このような方々は自分の病気に詳しいことも多いですが、さらに様々な質問もしてきます。病気を知ることによって、どこまで鍼灸師として関わられるかを見極める能力を養って下さい。

【使用教科書・教材・参考書】

臨床医学各論教科書、臨床医学各論追加資料、解剖学教科書、生理学教科書、入門解剖人体解剖学、配布プリント